

I 全体計画

学校の教育目標

ともに生きる子 人と社会と自然と

人権尊重の精神を基に、明るく健康で、知性と感性に富んだ児童を育成するために目標を設定し、その実現を図る。

令和3年度学校経営方針

- ・よいところをもっとよく（個性の伸長）
- ・豊かなふれあい（教職員と児童、児童相互）
- ・確かな児童理解（多様・多面的な理解）
- ・きめ細やかな指導（個に応じた見届ける指導）

本校の捉える「確かな学力」

- ・基礎的、基本的な力（読み、書き、計算）
- ・自ら課題を解決する力
- ・深く考える力（思考力・判断力・表現力）
- ・主体的に学び、対話をする力
- ・文章に即して読み取る力
- ・発達段階に応じた力

令和3年度の指導の重点

<各教科>

- 国語：**言語活動を充実させ、国語を使って正確に理解し、適切に自分の思いを表現する資質・能力を育てる。
- 社会：**大切な用語を理解し、社会的事象に対して多面的・多角的にとらえられるようにする。
- 算数：**少人数指導を活かして、基礎的・基本的な力を付け、数学的に考える資質・能力を育成する。
- 理科：**理科の見方・考え方を働かせ、問題解決の力を伸ばすようにする。
- 音楽：**音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- 図画工作：**造形的な見方・考え方を働かせ、つくりだす喜びを味わいながら表現したいことを見付けて表すことができるようにする。
- 体育：**各運動領域の特性を味わわせ、運動の楽しさを感じられるようにするとともに自己の課題を見付け、その解決に向け思考し判断したことを他者に伝えられるようにする。
- 生活：**具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自分自身や自分の生活について考え、自分なりに工夫して表現できるようにする。
- 家庭：**実践的・体験的な活動を取り入れ、家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けられるようにする。

外国語：教員やALTとのやりとりや ICT を活用する中で、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能（外国語活動：コミュニケーションを図る素地）の育成を図る。

<特別の教科 道徳>

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める道徳教育を通して、自分に自信をもち、相手のことを考え、真心をもって礼儀正しく行動しようとする心を育成する。

<特別活動>

コロナ禍において、間接的にふれあったり、感染症対策をしたりして関わる中で集団の一員としての自覚をもたせ、よりよい人間関係の形成を図り、自治能力や主権者として積極的に社会参画する力を育てる。

<総合的な学習の時間>

教科等を越えたすべての学習の基盤となる資質・能力を育成するために、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通し、主体的、創造的、協働的に取り組む力を育てるとともに、よりよく問題を解決する学び方や考え方を身に付けさせる。

<生活指導>

心をこめた挨拶や時と場に応じた言葉遣いの徹底を通して、人とかかわる力やコミュニケーション能力の育成を図る。

<進路指導>

キャリア教育を行い、コロナ禍でも将来への夢や希望を育み、困難を乗り越える忍耐力や願いを実現しようとする強い意志を身に付けさせる。

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫

- ・小1プロブレム解消のため、巡回指導員と連携したスタートカリキュラムを実施する。
- ・特別支援教育推進のため、月1回校内委員会開催と巡回指導による情報共有により、個に応じた指導を充実させる。
- ・東京ベーシックドリルを活用して、課題を明確にした上で繰り返し学習を行う。
- ・コロナ禍における安全な指導を実施する。

教育課程編成上の工夫

- ・授業時間確保のために、行事内容や週時程を見直す。
- ・低学年の体力向上のため、元気アップトレーニングを体育の年間計画に位置付ける。
- ・ゲストティーチャーを招き、キャリア教育をさらに充実させる。
- ・指導事項の内容を定着させるために、ICTを計画的に活用するよう教育課程に位置付ける。

評価の工夫

- ・年間指導計画に基づく評価計画の作成する。
- ・学年で統一した評価計画と評価方法を取り入れる。
- ・学習指導要領移行とともに、変更された年間指導計画や評価基準の見直しと改善を行う。
- ・評価を次の指導に生かせるようにする。

校内研究・研修の工夫

- ・国語の物語文における指導法の工夫と授業実践。語彙を増やすための掲示物作成と発信。
- ・保幼小中連携の取組。
- ・全学年におけるオリンピック、パラリンピックにおける取組。

中学校との連携

- ・6年生の教科担任制の取組。
- ・中学校教員による乗り入れ授業。
- ・中1プロブレム解消のための取組（中学校校舎見学7A、授業と部活動体験）
- ・6年生の教科担任制の取組。

家庭・地域との連携

- ・年2回の個人面談と年3回の保護者会の実施。
- ・校内掲示により道徳教育実践の発信。
- ・保護者や地域ボランティアとの連携（地域清掃、塔山まつり、ゲストティーチャー、金管バンド）
- ・ホームページの定期的な更新。

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用

- ・レディネステスト結果と児童の実態をもとに、少人数クラス編成にこまやかな助言を行う。
- ・算数の少人数指導の授業（2・3・4年生）に入ることにより、個に応じたきめ細かい指導を行う。また、放課後学習教室として、算数少人数担当教員と補充的な学習を実施し、基礎基本の徹底を図る。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科の重点

- ・言語活動を充実させ、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育てる。
- ・読むこと(特に、文章を読んで自分なりの思いや考えをもち、伝え合うことができる力)を付ける。
- ・書くこと(自分の経験を重ねて思いを表現することができる力)を付ける。
- ・言葉がもつよさを感じさせ、思いや考えを伝え合おうとする態度を養うために、語彙指導、読書活動を充実させる。

令和3年度「中野区学力にかかわる調査 国語」の結果より

どの学年も目標値が区平均を上回っているか、同程度の正答率がある。しかし、書くことの領域は他の領域よりも苦手な傾向がある。また、基礎は定着しているものの、活用が十分にできていない。日記や手紙を書くなど思ったことや伝えたいことを書く活動や、身近なことを報告したり、観察したものを記録するなど見聞きしたことを書く活動に重点を置いて取り組んでいきたい。

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名はおおむね定着しているが、定着には差がある。特に筆順・拗音・促音・助詞の使い方の定着は十分でない。 ・語彙力に差がある。自分の気持ちや伝えたいことを表現する力に課題がある。 ・意欲的に発言する児童が多いが、教師や友達の話の適切に聞き取ることが難しい児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文を書くときに、ひらがなが思い浮かばない児童が正しく書けるように支援していくこと。 ・ことわざかたや読み聞かせなどの語彙量を増やす活動を引き続き積み重ねていくこと。 ・内容をきちんと理解しながら話が聞ける児童を育てていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教室(きりりルーム)と連携した指導を行う。文字の読み・書きの積み重ね、音読の継続指導を続ける。定期的に書く経験を積み重ねていく。 ・気持ちを表す言葉や、修飾語などの学習したことを「ことわざかた」「気持ちを表すカード」として掲示したり、学んだ言葉を動作化をしたりする中で、繰り返し指導をすることで、語彙力の向上を図る。 ・朝の会や帰りの会にて、スピーチを取り入れ、話し方や聞き方を身に付けさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい漢字の学習には興味を持って取り組むが既習漢字を文章内で使うことが難しい。 ・読み取りにおいて、事柄の順序を考えながら内容の大体を捉えることが難しい。 ・文章を書くことが苦手で、経験したことから書くことを見付けたり、思いや考えが明確になるように書いたりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を覚えるのが苦手な児童に既習漢字の定着を確実にする支援の工夫。 ・文章の構造の理解が難しい児童に基本的な構造を理解させる指導の工夫。 ・事柄に従って自分の考えを明確にまとめられるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントを明確に指導し小テスト等での振り返りも増やす。既習漢字を使用した短文を書く機会を増やし定着を図る。 ・事柄の順序や内容全体を捉えて読むことや、例題をふまえての言葉遊びを柔軟に繰り返す。 ・書く機会を増やすだけでなく、経験を思い出す時間を多く確保する。何を知らせたいのか、誰に知らせたいのかという目的意識・相手意識をしっかり持たせ、文章の組み立てを考えて書く練習を増やす。他者との交流も増やす。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きの定着や語彙の習得状況に差がある。 ・作文では、書くこと自体への苦手意識を持つ児童や、自分の伝えたいことを明確にして書けない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を繰り返し学習したり語彙に触れる機会を増やしたりすること。 ・したこと作文だけでなく、多様な書き方で文を書く練習をすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読みの音読を行い、まずは読みから定着を図る。書き取りについては書き順で覚えられるよう指導し、自分自身や友達と習得状況をチェックし合えるようにする。 ・色々なテーマで日記を中心に書く機会を充実させる。友達と書いたものを交流したり、効果的な書き方を取り上げて紹介したりする。

4年	<ul style="list-style-type: none"> ・読書量は多いが、説明文の内容において、段落の要点に注意して読み取ることに課題がある。 ・調べたことや表を読み取り、適切な文章を補って文を書くことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で、要点を掴めるような読み取りの工夫。 ・取材したり資料を読み取ったりした後、全体の構成を意識して文章を書く力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイドラインを引いたり、重点箇所を繰り返し復習したりして、文章内の要点を掴めるようにする。 ・調べたことをまとめて報告する活動、(新聞作りなど)や、文章を読み、一部を引用して分かったことや考えたことを述べたり作文したりする活動を行う。 ・他教科(社会科など)とつながりをもたせ、調べ学習の際にノートに自分の言葉でまとめる機会を確保する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の内容を読み取る力が目標に達していない割合が高めであり、特に文章を読んで理解したことに基づいて感想を書くかに課題が見られる。 ・話し手の意図を考えながら聞く力、適切な言葉で話すかに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の経験や感じたことを書く力の育成。 ・話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き、メモをとったり、自分の考えがわかるように、適切な言葉づかいで話したりする力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日記や作文の指導に力を入れ、自分の考えや感想を書くことへの苦手意識を減らしていく。 ・聞く視点を明確にしたり、話型を提示したりする対話的な活動を授業の中で取り入れる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・活用ともに全体としてはおおむね力が付いているが、個人差が大きい。 ・話す・聞く力は、個人差が大きく苦手意識をもつ児童が多く見られる。 ・書く力と言語についての知識・理解・技能については、目標に達していない割合が高めである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査で正答率の低い児童への適切な支援。 ・話の要点をとらえながら聞く力の育成。 ・意見文や作文等で自分の考えをまとめること。 ・漢字や言語に苦手意識のある児童への指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後の補習学習に力を入れるとともに、スモールステップでの課題を設定する。 ・聞く視点を明確にするとともに、考えや気持ちを伝え合い、相互評価する活動を取り入れる。 ・ひな形を活用し、無理なく自分の考えを構成できるような活動を設ける。 ・反復学習で漢字を書く力の育成。

(2) 社会科

社会科の重点

- ・大切な用語を理解し、社会的事象を多面的・多角的にとらえられるようにする。
- ・社会的事象等について調べまとめる技能を身に付けるために
 - ①社会調査活動をICTも活用して多く取り入れる。
 - ②資料等から事実を正確に読み取らせるために、見方をしっかりと抑えてから活動する。
 - ③課題解決に向け、整理してまとめる方法を指導する。

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・副読本を生かした授業や社会科見学を通して、中野区の特色を理解することができた。 ・初めての社会科学学習であるため、地図記号や方位を理解したり、資料を正確に読み取ったりするまでに時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活経験の違いによる中野区についての理解の差をなくす指導の工夫。 ・二つの地図を比べて、共通点や差異を見つけること、地図における方位を正しく理解させること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の意見の交流の時間を作り、それぞれの知識をお互いに教え合えるようにする。 ・地図や地図記号に興味を持てるような活動を年間通して行っていく。 ・外部講師や見学を活用することにより、暗記だけではなく、生きた社会科の楽しさを体験させる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・9割の児童が地図の読み取りに積極的である。 ・調べ学習に対して積極的に取り組んでいる。 ・全体として資料の読み取りに課題がある。 ・多くの児童が情報を整理してまとめることに慣れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心を引き付ける導入教材・課題の工夫。 ・資料を読み取りの結果を適切に表現させること。 ・読み取りやまとめを個人で行ったり、グループで行ったりする機会の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の読み取りについて年間を通して行う。 ・資料の読み方の原則及び結果の交流を継続して指導することで、読み取る力を身に付ける。 ・国語の授業と関連をもたせ、新聞づくりやリーフレット作り、ノートまとめなど、様々なまとめ方を身に付させる。 ・自分の考えを表現したり、学級内で交流したりする時間を確保する計画を立てる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習等への積極性、情報機器操作には個人差がある。 ・基礎的資料から必要な情報を選びだし、まとめることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味・関心を引き出す教材の導入。 ・地図帳や地球儀、統計などの基礎的資料や情報機器からの適切な情報選択をさせること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味関心を引く身近な教材から出た児童の疑問から学習問題を設定し授業を行う。問題解決的な学習を毎時間行う。 ・調べる視点を明確にする。また、友達の考えを聞いてまとめる活動を多くとる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的歴史に興味関心の高い児童が多いが、一方で政治、経済に苦手意識をもつ児童が多い。 ・歴史的事象に対し、自分の意見や理由を明確にして述べるのが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区民選挙など、身近なところにある政治について着目させること。 ・年表を活用し、時間軸を意識して学習に取り組ませるとともに、より考えやすい資料を用いること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中野区の行政について等、身近な資料を活用し興味関心をもたせる。 ・自力解決、成果の統合と吟味の時間をとり、一人一人が自分の考えを深められるようにする。また、デジタル教材を効果的に用いる。

(3) 算数科

算数科の重点

少人数指導を活かして、基礎的・基本的な力を付け、数学的に考える資質・能力を育成する。

- ①単元前には各学年でレディネステストを実施し、児童に合った環境や方法で授業を行う。
- ②授業展開では、数学的活動を通じた学習を取り入れる。

令和3年度「中野区学力にかかわる調査 算数」の結果より

どの学年も目標値は10%前後上回っている。観点別正答率を見ると、主体的に学習に取り組む態度については、15%以上大きく目標値を上回っている学年と10%以内の差にとどまっている学年があり、学年による差が見られた。基礎・活用別正答率を見ると、基礎はどの学年も10%前後目標値を上回った。活用は20%以上、上回った学年もあった。きめ細かな少人数指導の成果と捉えられる。算数的活動を通して身につけさせたい力を明確にした授業を展開し、児童が数学的活動の楽しさや数学のよさに気付けるようにしていく。

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な力の定着に差がある。 ・数の順序は理解しているが、数え間違いをする児童が数名いる。 ・計算問題を解くことができる一方で、文章問題の意味理解が難しい児童が15%いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つまづいている児童への基本的な技能や知識の個別の指導。 ・基礎基本の定着。 ・理解の早い児童に対して、繰り返し見直しをさせる習慣をつけること。 ・文章から式の意味を判断できるようにするために、課題が見受けられた類題に繰り返し触れさせ、取り組ませること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教諭および各学級担任、保護者と連携してつまづきを支援する体制を整える。 ・ドリルや計算カードに繰り返し取り組む時間を保証することで、基礎基本を定着させる。 ・理解した内容を言葉で伝える活動を繰り返し行うことで、理解を深める。 ・文章を的確に理解させるために、図を描かせたり、演算決定できる言葉に印をつけさせたりすることで、問われている状況を理解できるようにする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本はおおむね身に付いている。 ・計算問題の得点率が高いが、加法を適用した順序数の文章問題で正答率がやや低い。 ・「水のかさ」「長さ」の学習内容が十分に定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題を読んで、意味に合った立式を行い、正しく計算できるように丁寧に指導すること。 ・水のかさや長さなど、単位換算を含む計算において、定着を図ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題を解くときは、文章を的確に理解させるために、図を描かせたり、演算決定できる言葉に印をつけさせたりすることで、問われている状況を理解できるようにする。 ・レディネステストの結果とこれまでの学習の様子を基に、クラス分けを丁寧に言い、児童の実態に合った指導を吟味する。 ・家庭学習や放課後補充教室を活用し、基礎基本の練習をさらに強化する。保護者にも協力を依頼し、宿題の丸付け、直しを丁寧に言う。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本はおおむね身に付いている。 ・図形の正答率がやや低い。 ・観点「思考・判断・表現」がやや低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「三角形と角」の単元の指導を丁寧に言うこと。 ・わり算やかけ算の意味を丁寧に指導すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レディネステストの結果とこれまでの学習の様子を基に、クラス分けを丁寧に言い、児童の実態に合った指導を吟味する。 ・文章題では、分かっていること、求めることにラインを引かせたり、図で表現させたりする活動を繰り返し言う。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本はおおむね身に付いている。 ・図形の正答率がやや低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「垂直、平行と四角形」「直方体と立方体」の単元を丁寧に言うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レディネステストの結果とこれまでの学習の様子を基に、クラス分けを丁寧に言い、児童の実態に合った指導を吟味する。 ・作図等の具体的な操作をする機会を増やす。

	<ul style="list-style-type: none"> ・観点「思考・判断・表現」がやや低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな解き方があることを丁寧に指導していくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「考え方」が分かるノート作りを指導する。 ・「考え方」を共有する時間を作る。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本はおおむね身に付いている。 ・観点「思考・判断・表現」が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの単元を系統的に指導し、理解を促すこと。 ・既習事項の活用の仕方や「考え方」の違いに関心をもって取り組ませること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「比例」「平均」「単分量あたりの大きさ」「割合」を系統的に指導する。数直線を活用し、2つの量の関係についての見方を育む。 ・「考え方」が分かるノート作りを指導する。 ・「考え方」を共有する時間を作る。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本はおおむね身に付いている。 ・習熟度の二極化が見られる。 ・観点「主体的に取り組む態度」「思考・判断・表現」が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別クラス編成を丁寧に行うこと。 ・確実に「できた」「分かった」と感じられる授業作りをしていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レディネステストの結果とこれまでの学習の様子を基に、クラス分けを丁寧に行い、児童の実態に合った指導を吟味する。 ・スモールステップで指導したり、繰り返し解かせたり、パターン化したり、考え方の違いに注目させたり、児童の実態に合った指導を行う。

習熟度別少人数指導の充実に向けて

- 発展コース「たっぷりコース」、応用コース「しっかりコース」、基礎コース「じっくりコース」に分け、習熟度別に自力解決の時間を十分に確保したり、算数的活動の充実を図ったりしている。
- 3・4学年を中心に、任期付短時間勤務教員がT2に入り、指導の充実を図る。

(4) 理科

理科の重点

理科の見方、考え方を働かせ、問題解決の力を伸ばすようにする。そのために、以下の点について、取り組む。

- ・見通しをもって、観察、実験を行えるように仮説や予想を明確にする。
- ・実験結果の考察を行う際に、その現象についての理科の見方を提示する。

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物への関心は高く、実験に意欲的に取り組んでいる。 ・観点「知識・技能」に比べて、「思考・判断・表現」の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察している対象の違いに気付いたり、観察・実験している事象と既有知識と関係付けたりする力を高めること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題意識を十分にもたせる。問題→予想・仮説→観察・実験→結果→情報交換→考察の学習過程を繰り返し行う。特に情報交換と考察の過程を重視する。 ・課題や学習内容を身近な生活場面や経験と結び付けて考えさせる過程を丁寧に扱う。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験への興味や関心が高い。 ・既習事項や生活経験をもとに問題解決に向けての仮説を立てられるようになりつつある。 ・観察、実験について考察する際、具体的に表現できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮説、実験、結果を関連付けて考えさせる指導をすること。 ・観察、実験の時間が十分にとること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮説を立てる際、考察する際には個人で考える時間を確保し、個人の考えを深めさせる。 ・iPadを活用し、写真や動画を撮ることで、繰り返し映像を見て確かめさせる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験に対し、興味関心をもって取り組んでいるが、できないことが多い。 ・実験の方法を考える際、たくさんのアイデアを表現することができるが、条件制御の能力についてはまだ課題が見られる。 ・仮説や実験、結果を振り返り考察する際に、言葉が足りない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験計画の立て方の指導法を工夫すること。 ・仮説、実験、結果をつなげて考察する力を育てる指導法を工夫すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できる限り、実験や体験を取り入れる。 ・実験における条件制御の指導を丁寧に行う。 ・これまでの経験から予想を立てさせる。 ・考察をするときの視点を明確にし、必要があればキーワードを提示する等し、言語環境を整える。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験への関心意欲はあるものの、自然事象への関心が低い児童が多い。 ・自然事象や実験結果についての説明や考察などをするときにわかりやすく表現することができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の知識や興味・関心の幅に関して、個人差をなくしていく指導の工夫。 ・問題解決の流れをきちんと理解させること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が主体的に活動できるように、また密にならないように少人数でのグループになるよう工夫する。学び合う機会を増やすために、興味・関心の個人差を加味してグループ分けをする。 ・授業中に考えを発信する機会を増やす。理科学習に必要な用語やキーセンテンスを提示して言語環境を整える。

(5) 生活科

生活科の重点

- ・具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自分自身や自分の生活について考え、自分なりに工夫して表現できるようにする。
- ・動植物などの自然や身近な人々に関わる機会を多く設けることで、様々な事象に興味や関心を持ち、生活上必要な習慣や技能を身に付ける。
- ・他学年や他者（保育園や幼稚園、お店で働く人々など）との交流を積極的にもつことで、他者の言葉や話に興味や関心を持ち、自分自身や自分の生活について考え、工夫して表現することができるようになる。
- ・進んで自分の意見や感想を友達に伝えることで、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・朝顔の世話をすすんでしており、細かな変化に気付いている様子が見られるが、それ以外の植物についてすすんで知ろうとする様子が見られない。 ・生活経験の差があることから、活動する中で気が付いたことや自分たちの生活を工夫していこうという態度にも差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に関わる体験が不足しているため、機会をより多く設けること。 ・感染症対策のため、少なくなった遠足等の校外の動植物に触れる機会を補っていく工夫。 ・ものの見方の向上及び、活動の中からの気づきについて、ペアやグループでの学び合いの時間を十分に確保すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物に触れたり育てたりする体験の機会を多くもつとともに、観察や活動の観点を具体的に指導する。 ・学んだことを自分とのかかわりでとらえさせ、自分自身や自分の生活について考えさせる。また、気付いたことをペアや小集団で話し合いが感染対策のため難しい。その為、絵や動画・写真などを使って、学び合う機会を設ける。
	<ul style="list-style-type: none"> ・夏野菜の生長を喜び毎日進んで関わり大切に育てる気持ちが育っている。また、生き物の特徴や動きに関心を示し観察したり触れ合ったりしている。 ・他学年との交流が難しい状況ではあるが、下級生の手本になろうとするなど、成長が感じられる。学級や家族内での自分の役割や仕事を理解して活動しようとしている。 ・実体験を通して感じたことや考えたことを自分なりに工夫して表現することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物アレルギーを持つ児童に十分な配慮をすること。 ・学校内では、高学年の存在や役割に視野を広げていくこと。 ・地域など身近な人々との交流する機会を確保すること。 ・各季節に合わせた自然や生き物との関わりから、自分の考えを表現する力を身に付けていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内の仕事をしている高学年の働きに注目させ、自分にもできる仕事を見付けたり、自分の役割を見直したりさせる。 ・可能な範囲で、学校内外の人にかかわる活動を通して、自分の生活を支えてくれている人の存在に気づき、感謝の気持ちをもつようにする。 ・前期に引き続き、体験活動を増やし、新発見の喜びを大いに感じさせることで自分の思いを表現したいという思いを高める。

(6) 音楽科

音楽科の重点

- ・音楽的な見方、考え方を働かせ、音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- ・音楽的な見方、考え方を働かせ、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- ・音楽活動の楽しさを体験することを通して、豊かな情操を養う。

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて口ずさんだり、体を動かすことはできるが、リズムがとれない児童が5%程度いる。 ・木琴を使い、ドレミの位置を覚え、簡単な曲を演奏することができている。 ・正しくリズム打ちができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲に合わせて体を動かすことや、階名唱で口ずさむことに慣れること。 ・色々な打楽器を扱いながら、それぞれの楽器の演奏の仕方や音の響きの面白さを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに手拍子を取り入れ、リズムを視覚化し、8小節程度の簡単なリズムに慣れるようにする。 ・基本的な打楽器について、よい音の出し方、音の強弱、リズムやテンポに慣れるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は歌唱する機会が少なかったため、意欲は高いが、正しい音程で歌唱できる児童は5割程度である。 ・音楽づくりでは、設定した条件に基づいて即興的にリズムをつくることはできるが、打楽器を使って表現することが困難な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声量や音程の調整ができるような指導の工夫。 ・様々な楽器を正しく扱い、演奏すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から音楽室の使用がはじまったので、人と人の間隔を開けることができる。そのため、丁寧に個別指導をしながら、歌唱の実践を積みませる。 ・様々な楽器を使用する経験を積みませる。鍵盤ハーモニカの使用は、唄口の扱いが上手にできない児童も多いので、可能であれば代替楽器を準備する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は歌唱する機会が少なかったため、意欲は高いが、正しい音程で歌唱できる児童は6割程度である。 ・リコーダーは7月に基本的な取り扱い方を指導し、実際に吹いたのは3時間程度であり、タンギングができた児童は3割程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声量や音程の調整ができるような指導の工夫。 ・リコーダーを上達させるためには、個別指導の時間を多く取ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌声を録音し、聴かせる。目指す歌唱を現状の違いを客観的捉え、にどのような部分を改善したらよいか意見を出し合い技能を向上させる。 ・リコーダーについては、クラスの人数が約40人であるため、授業中だけでなく、休み時間を使って感染に気を付けながら個別指導を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は歌唱する機会が少なかったため、意欲は高いが、正しい音程で歌唱できる児童は7割程度である。 ・グループ活動不可の中での活動であり、器楽については、個人の技能の差が激しく、クラス全体の演奏が仕上がるまでに時間を要してしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声量や音程の調整ができるような指導の工夫。 ・全体指導の中で個々の技能を向上させること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌声を録音し、聴かせる。目指す歌唱を現状の違いを客観的捉え、にどのような部分を改善したらよいか意見を出し合い技能を向上させる。 ・個人の技能向上のために、個別指導や教え合いができるよう、場の設定を工夫する。ipadの操作に慣れてきた学年なので、録画機能を使って演奏の様子を確認し課題を発見できるようにする。
4年			

5年	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度はほとんど合唱する機会がなかったため、合唱では、2つのパートに分かれた途端、音程が取れなくなる児童が多い。 ・器楽については、技能が高い児童が多いが、曲の特徴を捉えどのように演奏するかについて思いや意図をもつことまでできる児童は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声の重なり合いを聴きながら歌うことができるような指導の工夫。 ・曲の特徴について感じ取ったことや想像したことを既習事項に関連させて、伝え合う機会を多くすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ipadの録画機能を使って自分たちの合唱を客観的に鑑賞し、自ら課題を発見し改善点を提案できるようにする。 ・強弱や速度などの違いによる表現方法などを様々に試す機会を設け、器楽表現を工夫する楽しさを味わわせる。それらについて気付いたことや感じたことを伝え合う活動を入れる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度はほとんど合唱する機会がなかったため、合唱では、2つのパートに分かれた途端、音程が取れなくなる児童が多い。 ・器楽については苦手意識をもつ児童もおり個人の技能向上の必要はあるが、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことができる児童は増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声の重なり合いを聴きながら歌うことができるような指導の工夫。 ・曲の特徴について感じ取ったことや想像したことを既習事項に関連させて、伝え合う機会を多くすること。 ・全体指導の中で個々の技能を向上させていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ipadの録画機能を使って自分たちの合唱を客観的に鑑賞し、自ら課題を発見し改善点を提案できるようにする。 ・強弱や速度などの違いによる表現方法などを様々に試す機会を設け、器楽表現を工夫する楽しさを味わわせる。それらについて気付いたことや感じたことを伝え合う活動を入れる。

(7) 図画工作科

図画工作科の重点

- ・造形的な見方・考え方を働かせ、つくりだす喜びを味わいながら表したいことを見つけて表すことができるようになる。
- ・対象や事象をとらえる造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解できるようにする。

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・色を混ぜたりつくったり、表現したりする活動を楽しんでいる。 ・何をつくってよいか、何を描くか分からずになかなか取り組めない児童や、工夫できない児童がいる。 ・指先を使った活動が経験不足のため、思うように動かせない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の扱い方の習得。 ・鑑賞活動の充実。 ・感性を働かせ、豊かに発想する力の育成。 ・ハサミや糊、色鉛筆、粘土などの道具や素材の扱い方を繰り返し指導すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の扱い方を視覚的にわかりやすく伝え、個別に指導支援する。 ・材料とふれあい、発表や鑑賞を通して友達とかかわり合いながら感性を働かせる機会を十分に確保する。 ・分量の多い粘土を丸めたり、捻じったり、摘まんだりする活動に取り組む。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な題材に興味をもち意欲的に取り組んでいる。 ・用具の扱いの理解が十分でないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全身を使った造形活動の充実。 ・はさみ、のり、カッターナイフ等、用具の安全で正しい扱い方の習得。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいに即した材料の選択と場の設定を工夫して行う。 ・用具の扱い方を視覚的にわかりやすく伝え、個別に支援する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いをもち、楽しみながら取り組んでいる。 ・材料や用具の特性の理解が十分でないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の意図や思いを友達に伝える機会の設定。 ・様々な種類の筆や、のこぎり、金づち等、用具の正しい扱い方の習得と材料の特性の感覚や行為を通した理解。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞や発表の活動を楽しく行えるように工夫する。 ・材料や用具の扱い方をわかりやすく伝え、活動時間を十分に確保することで、感覚や行為を通した理解を促す。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら主体的に活動しているが鑑賞活動が十分ではない。 ・新たに扱う用具に積極的に挑戦しているが、習得が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの発想や表現を認め合う双方向的な鑑賞活動の充実。 ・彫刻刀、電動系のこぎり等、新たに扱う用具の安全で正しい扱い方の習得。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かに発想や構想ができる題材を検討し、活動や作品毎の違いやよさを多く見付け認め合えるようにする。 ・用具の扱い方を視覚的にわかりやすく伝え、教え合う活動を取り入れる。活動時間を十分に確保することで感覚や行為を通した理解を促す。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら主体的に活動している。 ・自分の発想や構想、表現を深めきれないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてを設定した活動。 ・表現と鑑賞の一体化を図り活動を通した深い学びの実現。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてを設定し、授業の後で振り返り、次のめあてにつなげられるようにする。 ・自他の表現や、鑑賞して感じたこと等について言語で伝え合う双方向的な活動を多く取り入れる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら主体的に活動している。 ・自分の発想や構想、表現を深めきれないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてを十分意識した、主体的な活動。 ・表現と鑑賞の一体化を図り活動を通した深い学びの実現。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを意識し振り返りながら造形的な見方・考え方を働かせることを促す。 ・自他の表現や、鑑賞して感じたこと等について言語で伝え合う双方向的な活動を多く取り入れる。

(8) 家庭科

家庭科の重点

実践的・体験的な活動を取り入れ、家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けられるようにする。

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の授業に関心、意欲をもって取り組んでいるが、技能については個人差が見られる。 ・裁縫では、友達と協力しながら、基礎的な技能を身に付けているが、指先の巧緻性については個人差がある。 ・消費や環境についての理解はまだできていないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能の定着 ・コロナウィルスの影響で、自分で買い物に行ったりする機会が減っている中での代替活動を工夫していくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縫い方の説明動画などを用いて理解しやすくする。 ・iPadで調べ学習を行ったり、動画を見たりして理解を深める。コロナウィルス感染対策のためグループ活動が行えていない。そのため、自分の考えをiPadで送って意見交換を行っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね関心、意欲をもって取り組んでいるが、コロナウィルス感染対策のため調理実習等を行うことができず、座学だけになってしまっている単元もある。 ・能力や生活経験の差等の個人差が大きいため、実習では進度に差が出たり、得意な児童に頼ってしまったりする姿が見られる。特別な支援を必要とする児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ができない単元については、計画と振り返りを学校で行い、実習は週末や長期休業中に家庭での協力を求めて実施していくこと。 ・個人差に応じた実習の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に丁寧に計画を立て、負担の少ない方法で家庭にも協力していただく。 ・児童の特質や発達段階に合わせて作業を単純化したり、特別支援教室(きらりルーム)と連携して適切な指導方法を取り入れたりする。

(9) 体育科

体育科の重点

- ・課題となっている握力、敏捷性と投力（体カテストより）を中心に、授業内での運動量を確保し、体力全般も上げていく。
- ・各運動領域の特性を味わわせ、運動の楽しさを感じさせられるよう教材を選定し、意識的・効果的に運動に取り組むことができるように授業をつくる。
- ・ICT 機器の活用によって自己の課題を見付け、解決できるような時間を設定する。
- ・課題を解決する振り返りの時間を持ち、教師と児童、児童と児童、資料と児童との間で対話が生まれるようにする。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に体を動かす児童が多い。一方で特定の運動について苦手意識をもつ児童もいる。児童間による運動経験の差が大きい。 ・音楽やリズムに合わせて、全身を使って色々な動きができる。 ・背の順や赤白4列などで整列をする、準備運動をするなどの集団行動がとてもスムーズにできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動経験の差に応じた集団遊びやゲームなどのルールの理解と遊具や道具の活用。 ・筋力や握力を高め、走力や持久力を向上させるための重点的な指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ・跳ぶ、回転するなどのサーキット練習を単元の前半に取り入れられたり、家庭と連携して様々な体の動きを練習する機会を継続して設定したりすることで、基礎的な運動感覚を身に付けられるようにする。 ・授業の準備運動の中に筋力や敏捷性バランス感覚を高める動きを取り入れる。 ・年間を通して適切な運動量を確保するとともに、いろいろな遊びを通して体力が高められるよう指導を工夫する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の運動時間が少ない。（休み時間の外遊びは同じ遊び、同じメンバーに偏りがちである。） ・男子は握力と投げる力、女子は握力に課題がある。 ・1人1人の運動経験の有無による、技能の個人差が大きい。 		
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭が狭く、人数が多いため、運動の機会が限られてしまっている。一単位時間の運動量が少ない。 ・「投げる」「打つ」「捕る」など日常生活にはない基本的な動きの習得に差がある。 ・体カテストでは、全国平均と比較して、どの項目もバランスよく伸びている。男女とも投力、敏捷性に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動機会の確保。 ・自分自身の動きを客観的に見て、なぜできないのか、どうすればできるかを把握すること。 ・投げる力や敏捷性を高める運動の導入。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの人数や場の工夫をして、運動量を確保する。 ・動画を撮影して自分の動きを確認することで自分の課題に気付けるようにする。気付いたことを伝え合う時間を作り、次の授業で生かせるようにする。 ・ボールを遠くに投げる運動、体の位置や動く方向をすばやく変える運動を計画的に取り入れる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・体カテストの結果、上体起こしと長座体前屈の数値が高く、反復横跳びとシャトルランで数値が低いことが分かった。 ・全体的に運動量が少ない。 		
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・体カテストの結果、上体起こしと長座体前屈の数値が高く、反復横跳びとシャトルランで数値が低いことが分かった。 ・全体的に運動量が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての運動の基礎となる体作り運動の効果的な実施。 ・意欲面や技能面でつまづいている児童への効果的な支援方法の確立。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて授業の開始10分間に単元の基礎となる体作り運動を取り入れる。休み時間、朝の学年遊びの時間に、鬼ごっこや多様な運動遊びに触れる環境を作る。 ・技能面の細分化やICTを活用した視覚的な支援を計画することで、スモールステップで指

	<ul style="list-style-type: none"> ・表現や器械運動に苦手意識をもつ児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現や器械運動に苦手意識をもつ児童への支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導し技能の定着や達成感を味わわせる。 ・基礎的な技能の向上を体験させることで、楽しんで学習に取り組めるようにする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・表現運動等、全員で力を合わせて取り組む運動への意欲は高く楽しくできている。 ・コロナ禍における運動技能の低下が大きく、体を動かす機会も減っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動量を確保した上での、作戦タイム等の話し合う時間の確保。 ・走力や投力、敏捷性、柔軟性を高める運動を取り入れた活動の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や単元の特性を考慮した上で楽しさが感じられる教材を実践していく。 ・チームでの学習を取り入れ、互いのよかった動きを認め合う時間を設け、相手を称賛する態度を育てる。 ・準備運動に、単元を考慮した上での筋力を高める運動や、柔軟性を高める運動、多様な動きをする運動を多く取り入れる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でもあり、外遊びの時間が少なく運動量は大幅に減ってきている。 ・運動を得意とする児童と苦手意識のある児童の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら取り組みたいと感じられる教材や活動の工夫。 ・身構えずに取り組めるような、体ほぐし運動や体全体を使った運動を多く取り入れること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や単元の特性を考慮した上で楽しさが感じられる教材を実践していく。 ・準備運動に、単元を考慮した上での筋力を高める運動や、多様な動きをする運動を多く取り入れる。また、持久走など無理なく走る運動を意識的に取り入れる。

(10) 外国語活動・外国語科

外国語活動・外国語科の重点

・コロナウイルス感染拡大防止の観点から、児童同士のやり取りや発表などの活動を減らし、代わりに教員やALTとのやりとりやICTを活用する中で、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能(外国語活動:コミュニケーションを図る素地)の育成を図る。

〈外国語活動〉

・言語活動や iPad を活用した学習(おまかせ教室など)を通して、主体的なコミュニケーションを図る楽しさに気付かせ、英語の音声やリズムに慣れ親しませる。

・映像資料などを通して、日本の文化と異文化を比較することで、多様な考え方があることに気付かせる。

〈外国語〉

・簡単な語句や基本的な表現について語順を意識して書けるようにするために、iPad を用いて個人でも音声を繰り返し聞いたり、e ラーニング用アプリケーションを使ったりして、十分に慣れ親しませる。

・デジタル教材の活用やALTとのやり取りを通して、言語の背景にある文化に対する理解を深める。

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	・アクティビティや歌、チャンツ、ALTとのやりとりに楽しんで参加している。 ・コロナ禍のため、活動に制限がある。	・大きな声で発音したり、他児童とペアで活動したりすることが難しいため、コロナ禍でもできる活動を工夫すること。	・大型テレビや iPad を活用して、外国語の音声やリズムに繰り返し慣れ親しませる機会を増やす。 ・音声表現とともに身振り手振りといった非言語的コミュニケーションスキルを高める活動を取り入れる。
	・多くの児童が、基本的な表現に慣れ親しむゲームやチャンツに意欲的に取り組んでいる。 ・友達同士で伝え合う活動では、表現や発音に自信がもてない児童がいる。	・ゲームを楽しむだけにならない工夫。 ・表現や発音を様々な方法でインプットすること。	・ゲームやチャンツを楽しむ中で外国語への興味、関心を高めると同時に、表現や発音を身に付けられるようにする。 ・ALTや iPad 内にある教材を活用して繰り返し発音や表現方法を学び、自信を付けてからアクティビティにうつるようにする。
5年	・ゲームや歌には楽しみながら参加している児童が多いが、アルファベットを書くことには難しさを感じる児童が多い。 ・コロナ禍のため、大きな声で発音したり、グループでの活動ができない。	・アルファベットを書くことに興味・関心をもてる工夫をすること。 ・マスクを着用している児童が正しく発音できているかを見取ること。	・四線のプリントを配布し、少しずつアルファベットを書く練習をして苦手意識を減らしていく。 ・ALTの発音だけでなく、iPadを用いていつでも音声が聞けるようにする。
	・楽しみながら学習に参加している児童と、苦手意識を強くもつ児童との差が大きい。 ・コロナ禍のためALTの発音する際の口の形などをマスクなしに見ることができない。	・外国語にふれる機会の少ない児童が興味・関心をもてるような教材の工夫。 ・児童もマスクを着用しているため、正しい口の開け方で発音するように指導すること。	・デジタル教材を活用し、遠い国のことが身近に感じられるようにしながら学習に臨めるようにする。 ・これまで以上に多くリスニングの機会を確保し、正しい発音を耳から習得させる。デジタル教材で口の開け方等の見やすい動画を活用する。

ALTの活用の工夫

○ALT が外国についての話をしたり、ALTと一緒に活動したりする中で、子どもたちの外国語でのコミュニケーションへの関心や意欲を高める。

○正しい発音の仕方を学級の児童の実態に応じ、繰り返し指導する。